

1 (5) 地域との連携

外部講師と連携しながら、日本の伝統音楽の本質に迫った音楽の授業

**こんな実践**

地元の三味線奏者の方を授業に外部講師として迎えたり、授業者自身が三味線の演奏について指導を受けたりするなどして、外部講師との連携によって日本の伝統音楽の本質に迫る授業をつくり上げていった実践です。

実践学校 F 中学校

実践学年 2 学年

実践時期 9 月

単元・題材名 「みんなで紡ぐ伝統の調べ」(全5時間扱い)

学習指導要領との関連：A 表現(2)イ ウ

○ 授業者は、音楽室にあった三味線を生かして日本の伝統音楽の本質に迫る授業ができないかと考えました。しかし、三味線に触れたことがなかったため、どのように授業づくりを行えばよいのか悩んでいました。

○ 「授業で三味線を教えるのに、自分が知らないから教えられない。まずは自分が三味線について知らない！」と思った授業者は、地元の三味線奏者を訪ね、週に1回、習いに行きました。そして、三味線に触れ演奏していく中で、奏法によって感じられる音色や余韻などが、“日本らしさ”を生みだしていることを見付けだします。また、共に演奏をしている相手の思いを察して演奏することにも気づき、日本人のもつ感性が大きく関わっていることも学びました。



三味線の奏法を習いに行く授業者



**ここがポイント!**

地域の人材や素材を授業の中で生かしていく際に大切にしたいことはなんですか？

- ✓ 地域の素材については地元の方がよく知っています。教師自らが地域の方に学びながら、その素材のどこに価値があるのか、児童・生徒はどんなことを感じるのか、ということを実感する教材研究を行っていきましょう。また、地域の人材についても、まずは教師自身が出会い、どのような思いで活動されているかなど知った上で、児童・生徒との出会いを構想していきましょう。

○ 授業者は、生徒が日本の伝統音楽に親しんで演奏できる力をつけたいと考え、外部講師と連携しながら日本の伝統音楽の本質に迫る授業を構想しました。

○ 外部講師の方の関わりは、次の3点です。

- ① 「“日本らしさ”を表現したい」という思いを抱くことができるような、題材との出合いの場における外部講師による演奏。
- ② 一人一人が旋律を演奏できるようになるための技術指導。
- ③ 見付けだした伝統音楽の特徴を生かして表現を工夫する場面での指導。



三名の三味線奏者の方の演奏との出合い

○ 題材の出合いの場面において、「生で三味線の演奏を聞いて鳥肌が立った。日本らしさや独特の響きを感じることができた。」と学習カードへ記入する生徒がいました。また、表現を工夫する場面において、外部講師の指の動きなどの奏法や音色に近づこうと、積極的に指導を受け、主体的に学ぼうとする生徒の姿がありました。

○ 授業づくりに関わってくれた外部講師の方は次のような感想をもちました。

まさか中学生の前で、演奏したり、三味線を教えたりする日が来るなんて思わなかったです。日本音楽の中でも、三味線を聴いたり、弾いたりする経験は今の時代なかなかできることではないので、その機会に自分が携われて楽しかったです。最初、三味線を教えてほしいなんて面白いこという先生がいるもんだなと思いました。でも、実際に話を聞いてみると、全ては生徒のため。こんな素敵な先生に音楽を習っていたら、生徒たちはどんなに幸せだろうなと思いました。だから、私のできることを全力でやりたい！と思いました。授業も楽しかったし、私も勉強させてもらいました。



### ここがポイント！

地域の外部講師の方との連携において、大切なことはなんですか？

- ✓ 授業のどの場面で、どのような意図で、どのような形で外部講師に関わっていただくか、明確にして授業を構想することが大切になります。

### まとめ

- ・地域にいる三味線の専門家を外部講師として授業に招き、連携しながら授業をつくり上げたことで、教師自身はその教材の本質に気付くことができ、また、生徒も日本音楽の特質や雰囲気を感じ取り、学びが実現されました。
- ・学校だけがメリットのある活動ではなく、外部講師の方にとっても充実感を感じられる活動として位置付けることができました。